

復刊にあたって

野崎 隆一（神戸まちづくり研究所 理事長）

「塾・まち研通信」が途絶えて長い時間が経ってしまいました。今年の総会で発信の大切さへのご指摘があり、小森星児初代理事長が企画を提案することで、復刊1号の発行にこぎつけることができました。

この間、神戸まちづくり研究所は休眠していたわけではありません。被災地まちづくりでは、東日本（釜石、気仙沼、石巻、山元）に続き、熊本（益城、南阿蘇）、西日本（宇和島、真備）へと、関わり方は多様ですが、支援をつないでいます。また淡路島におけるプラットフォーム形成や明舞団地におけるエリアマネジメント、神戸市におけるコミュニティ施策事業など新しい分野への関わりも多くなりました。

間もなく神戸まちづくり研究所も設立20周年を迎えます。シンクタンクを目指して実感したのは「まちづくりは計画づくりではなくプロセスづくり」であり「動かし支えるのは仕組みではなく人」であるということでした。そのような視点に立つて行う、我々の提案が、受け入れられる機会も増えたように感じます。

神戸市においても二度にわたり指定管理を逃した「こうべまちづくり会館」で3度目のチャンスが巡ってきて、この度「まちづくり拠点施設」の企画運営を受託することになりました。いかにして人を育てるか？ 災害復興の経験から、それは、机に座って学ぶものではないと確信しています。現場が人を育てる。場数を踏んで、人は育ちます。幸い神戸市内には、数多くの多様な現場があります。また、地域づくりに関心を持つ若者（大学生、高校生）や時間の余裕ができたシニアの方々がいます。双方のニーズを丁寧に把握して出会いの場をマッチングする。そんな機能をこの場所で実現したいと考えています。人が自ら育つ環境作りを行いたいのです。

合わせて、次のステップに進むためのシェアオフィスやまちづくり人が集うサロンも用意しています。居場所とは、英語で「Place to be」と言うと教えてもらいました。自由で多様だけれど、何かになるための場所。素敵ですね。

こうべまちづくり会館から、多くのまちづくり人が巣立ち、小さいけれど多様な活動が、新しい地域社会づくりにつながっていけばと願っています。皆さんの応援をよろしく願います。

【特集】まちづくりに関心がある社会人・学生へ 『私（会員）が薦める3冊』

復刊第1号は『私が薦める3冊』を特集します。まちづくりに関心がある社会人・学生の皆さまに対し会員からアドバイスを届けるという趣旨と合わせて会員の紹介をしようというものです。（3冊合計で4500円以内を目処） 【特集担当：小森星児、鬼本英太郎】

※著者名（敬称略）、『本のタイトル』出版社、発行年の順で紹介

■ 相川 康子（監事、特定非営利活動法人 NPO 政策研究所専務理事）

- ①中川幾郎 編著『コミュニティ再生のための地域自治のしくみと実践』学芸出版社、2011
- ②日端康雄『都市計画の世界史』講談社現代新書、2008
- ③桂坂の会・女の目で見えるまち研究会 編『女のまちづくり宣言・京都発』学芸出版社、1987

①は、近年多くの自治体で採用されている住民自治協議会について、地域自治の理論と制度設計・運用の工夫の両面からアプローチした実践者向けの解説本。

②は、古今東西の都市の成り立ちや都市計画の考え方、開発・制御の手法がコンパクトに紹介されており、挿絵も効果的で、視野が広がる。

③は、女性グループがまちを観察して、景観やバリアフリーの必要性、万人が社交や文化を楽しむための工夫などを提言する活動の嚆矢的レポート。柔らかい言葉で書かれており、今なおその指摘は新鮮だ。

■ 浅見 雅之（理事・事務局長、合同会社人・まち・住まい研究所代表社員）

- ①山崎亮『コミュニティデザイン—人がつながるしくみをつくる』学芸出版社、2011
- ②谷亮治『モテるまちづくり：まちづくりに疲れた人へ。』まち飯叢書、2014
- ③木下斉『地方創生大全』東洋経済新報社、2016

なるべく若い著者の著作から選びました。[]内は著者の年令。

①では、まちづくり・地域づくりのある側面を切り取り、それが「コミュニティデザイン」であると宣言して世間に知らしめた功績を取り上げたい。公共空間のデザインを「使う人達のつながり」の側面から捉え直し各地で課題を解決する著者の代表著書。[46]

②は、住民参加のまちづくりを「コミュニティによる公共財活用の作法」と捉え、ボランティアな地域活動のあり方や、まちづくりの必要性を論じる。ここで語られる「まちづくりで飯が食えないのはなぜか」については、私達にとって永遠の課題。[39]

③は、全国各地の商店街等と共に地域経営型を進めてきた著者が、徹頭徹尾「本当に有効な地方創生」とは何かを論じる地域経営の処方箋。補助金頼みの公共事業がいかに害悪であるか、地域づくりにおける「合意形成」がいかに無駄かを解く。[37]

■ 大津 俊雄（会員）

- ①大久保昌一『有機的都市論—都市計画におけるパラダイムシフト』都市文化社、1989
- ②デヴィッド・ハーヴェイ著、森田成也ほか訳『反乱する都市—資本のアーバナイゼーションと都市の再創造』作品社、2013
- ③岡部一明『市民団体としての自治体』御茶の水書房、2009

都市計画を志す人は、都市と社会について、縦横斜めの「知識と経験」が求められる。

- ①で 20 世紀までの都市の変遷を把握し、
- ②で 21 世紀に起こる都市問題を予測し、
- ③でアメリカ自治体と NPO の出自をトクヴィル風に楽しく読もう。

では体験はどこで？ 「書を捨てよ！ 町へ出よう（寺山修司）」

更に、日常の「パンとサーカス」に踊らず、人間と社会の動きを俯瞰するには、次の 3 点を加えたい。青年時代の私は、この 3 点で目から鱗が落ち、碧い地球に棲息する人類が、とても愛おしく見えてきた。

- ④ジャン・ボードリヤール『消費社会の神話と構造』紀伊国屋書店、1995
- ⑤ジャレド・ダイヤモンド『銃・病原菌・鉄—13000 年にわたる人類史の謎』思想社、2000
- ⑥ロジェ・カイヨワ『戦争論』法政大学出版局、1974（簡便には西谷修の関連本あり）

さあ「若者よ、町へ出よう。書を抱えて！」

■ 鬼本 英太郎（兵庫県専修学校各種学校連合会常務理事兼事務局長）

- ①震災復興市民検証研究会編著「市民社会をつくる震災後 KOBE 発アクションプラン」市民社会推進機構、2001

- ①昨年の「NPO 法 20 年兵庫地域フォーラム」を実施する過程で再読しました。25 年前の阪神・淡路大震災の時、市民は互いに支え合い助け合って命と暮らしを守るなか、少しずつ心の平穏を取り戻し、また、知らず知らずのうちにだれかに依存したり、行政任せにしていたくらしの基盤は肝心なときに有効に働かなかったり虚構だったことを私たちに気づかせた。「市民は、これからは公共の領域に属するいろいろな課題を自ら引き受け解決していく」や「市民の発意が尊重され、生き生きと働ける環境を生み出すために必要な社会制度をつくる」、「協働を通じた行政との話し合いや中央・地方の議会などと意見交換を進める」などのアクションプランの提唱を通じ、市民活動の原点を教えてくださいました。この本の執筆に携わった方が多数いらっしゃる中で、僭越ではありますが、掲げさせていただきました。

■ 川中 大輔（理事、龍谷大学社会学部講師・シチズンシップ共育企画代表）

- ①加藤哲夫『市民の日本語：NPO の可能性とコミュニケーション』ひつじ市民新書、2002
- ②パウロ・フレイレ『被抑圧者の教育学 [50 周年記念版]』亜紀書房、2018

③加藤晴久『ブルデュー：闘う知識人』講談社選書メチエ、2015

- ①は参加の場で小さい声やまともでない言葉を聴く大切さを改めて心に刻み直す機会を提供すると共に、そうした声が響く場をつくる上で求められる構えがいかなるものかを示してくれる。
- ②は現状をして「まあこんなもんでしょ」と諦めさせられている人々の認識を解放し、エンパワメントしていく学びの実践を形づくる理論が記された重要な一冊。
- ③は文化資本による「差異化=卓越化」を通じた抑圧／排除の問題を指摘したピエール・ブルデューの社会学への入門に良い。参加の場をつくる者には、文化資本を巡る問題に自覚的でありたい。

「読みやすい、けれども、示唆深い」というもので、以下の2冊を推薦いたします。

- ④ポール・フライシュマン著、片岡しのぶ訳『種をまく人』あすなろ書房、1998
- ⑤寄藤文平『絵と言葉の研究-「わかりやすい」デザインを考える』美術出版社、2012
- ※④邦訳書は絶版ですが、Amazonでは古本が流通していますので購入可能です。

■ 小林 郁雄（阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター上級研究員）

- ①田中優子『江戸の想像力：18世紀のメディアと表徴』ちくま学芸文庫、1992（原著は筑摩書房、1986）
- ②中沢護人・森数男『日本の開明思想：熊沢蕃山と本多利明』紀伊国屋新書、1970
- ③渡辺京二『逝きし世の面影』平凡社ライブラリー、2005（原著は平凡社、1998）

SDGs やコンパクトシティなどという前に、江戸時代の政治経済文化社会を深く見つめ直すことが、年金暇人の昨今。人口急増日本は明治維新に始まるが、21世紀の人口急減日本のまちづくりはサステイナブル社会であった江戸後期をとりあえず参考にしたい。

- ①は江戸の社会文化基盤を、
- ②は尊王攘夷ではなく開明思想こそ維新近代化の原動力、
- ③は日本文明の原点とは、を学ぶ。

■ 小森 星児（神戸商科大学名誉教授）

- ①渡辺靖『アメリカン・コミュニティ；国家と個人が交差する場所』新潮社、2007
- ②中室牧子・津川友介『原因と結果の経済学；データから真実を見抜く思考法』ダイヤモンド社、2017
- ③枝廣淳子『地元経済を創りなおす；分析・診断・対策』岩波新書、2018

①は著名な文化人類学者による9つの特色あるコミュニティの探訪記で、内容はランプ登場以前だが、アメリカのコミュニティの多様さに驚かされる。グーグルのストリートマップを

参照しながら読むと一段と興味が湧く。日本については寛裕介『持続可能な地域のつくり方』が図表山盛りで、いくらかも応用できるハンドブックとして貴重である。

- ②は世の中に溢れる根拠がない俗説を論破する手引書。平易だけど最近の手法を紹介し内容が濃い。飯田泰之他『地域再生の失敗学』も、行政の甘い話に騙されないために一度は目を通しておくべきだ。
- ③は大企業や公共工事に依存しない地域経済の優位性と振興策を、全国の事例を挙げて論証して刺激的。もう少し深く学ぶには中村良平『まちづくりの構造改革Ⅱ』と日本政策投資銀行『地域経済循環分析の手法と実践』が、最新かつ行き届いた指南書である。

■ 菅 磨志保（理事、関西大学社会安全学部・大学院社会安全研究科）

- ①大阪ボランティア協会編『テキスト市民活動論[第2版]』大阪ボランティア協会、2017
- ②木村周平・杉戸信彦・柄谷友香編著『災害フィールドワーク論』古今書院、2014
- ③ロバート.N.ベラー編著『心の習慣：アメリカ個人主義のゆくえ』みすず書房、1991（*1）
（*1）私が古本屋での購入時は定価 3800 円と記されていたが、出版社のサイトで確認したら 6048 円で、しかも在庫僅少とのことなので、図書館で読まれることをお勧めする。

- ①は、CSR や市民協働など広がり続ける日本の市民活動を理解する良質のテキスト。
- ②は、「100 万人のフィールドワークシリーズ」という研究方法論の専門書。論文には書かれない過酷な災害現場で知見を得ようとする体当たりの試行錯誤を覗き見でき、また多様な分野の研究の視点を知ることができる。「災害」という特殊な事象に焦点が当てられているが、まちづくりでも参考になる知見が得られると思う。
- ③学生・院生には読破して欲しいが、分厚さに躊躇する人は「付論：公共哲学としての社会科学」だけでも。掲げた大きなテーマが、緻密に計画されたインタビューで掘り下げられ、結論が導き出されていく過程に注目。

■ 田村 太郎（副理事長、一般財団法人ダイバーシティ研究所 代表理事）

- ①松下圭一『政策型思考と政治』東京大学出版会、1991
- ②鷺田清一『しんがりの思想 反リーダーシップ論』角川新書、2015
- ③岡本全勝編『東日本大震災 復興が日本を変える—行政・企業・NPO の未来のかたち』ぎょうせい、2016

- ①は市民自治による政策形成の思考を体系的に整理した基礎的なテキスト。
- ②は人口減少や経済収縮の時代に求められる市民の心もちを「しんがり」という表現で提起したもの。
- ③は復興事務次官を務めた編者が、東日本大震災からのプロセスを通じて官民連携の新しい形を自らも執筆しながら提言する。

私たちは「自分ではない誰か」に責任を押しつけ、自らを主体に置かずに議論しがちだが、社会課題の解決には多様な担い手の参画が不可欠であり、責任をわかちあう社会のありようをこの3冊から学びたい。

■ 野崎 隆一（理事長、一級建築士事務所株式会社遊空間工房 代表取締役）

- ①ジェイン・ジェイコブス『市場の倫理と統治の倫理』筑摩書房、2016
- ②鷺田清一『パラレルな知性』晶文社、2013
- ③丸山俊一『マルクス・ガブリエル欲望の時代を哲学する』NHK出版、2018

- ①は、原題「SYSTEM FOR SURVIVAL」が示す通り、二つの異なる行動規範「市場の倫理」（商人道）「統治の倫理」（武士道）の視点から市民社会の課題を解き明かすものである。
- ②は、市民的知性と専門的知性の葛藤と相克から、現代社会における専門家のあり方を説いている。
- ③は、「全体は存在しない」と主張することで、ポストモダン以降の社会の事象を捉え直す哲学入門書である。いずれの書も「まちづくり」の転機に立つ我々が、考えなければならないポイントを指し示している。

■ 萩原 正五郎（理事、萩原 都市・建築 計画事務所）

- ①内田青蔵『日本の近代住宅』鹿島出版会、2005（第5刷）
- ②小田切徳美『農山村は消滅しない』岩波新書、2015（第4刷）
- ③今津美樹『図解ビジネスモデルジェネレーションワークショップ』翔泳社、2014

- ①は制度としての洋風化から、和洋折衷型住宅、郊外住宅、住宅改良運動、多様な住宅論の流れ等、わが国の近代住宅の変遷過程を詳しく論じており、空間コミュニティの原単位である住宅について熟考するのも面白い。
- ②は日本社会に蔓延している過疎化、高齢化、その最先端を走っている農山村コミュニティ、田園回帰前線として農山村再生の課題と展望を分かりやすく解説している。
- ③は新規事業、事業再構築に向けたワークショップ形式によるビジネスモデルキャンパス(BMC)活用ノウハウ解説書

■ 三谷 真（会員）

- ①石原 慎士・佐々木 茂・石川 和男・李東勲編著 『産業復興の経営学：大震災の経験を踏まえて』同友館、2017
- ②服部圭郎 『若者のためのまちづくり』岩波ジュニア新書、2013
- ③公益財団法人尼崎地域産業活性化機構 『次代を担うひと・まち・産業』AIR 叢書第3号、2016

- ①石巻専修大学の先生方が中心となって執筆。まち研の大江、三谷も執筆。
- ②まちづくりの入門書。大人も読める内容です。
- ③尼崎のまちづくりの事例がおもしろい。

■ 室崎 益輝（兵庫県立大学大学院教授）

- ①ジェイン・ジェイコブス著、山形浩生訳『アメリカ 大都市の死と生』鹿島出版会、2010
- ②小宮豊隆編『寺田寅彦随筆集 第5巻』岩波文庫、1948
- ③高橋裕『都市と水』岩波新書、1988

安全は必要条件ではあるが十分条件ではない。安全だけを考えてまちづくりをしていては、良いまちはできないし、真に安全なまちもできない。安全は、日常的な街のあり方と密接に関わっており、自然や文化と表裏一体の関係でとらえなければならない。その、まちの日常と非日常のかかわりのあるべき姿を示してくれる、3冊です。

- ①は、まちと安全とのかかわりを示唆しているもので、安全には複合性や多様性が前提となることを教えてくれている。ジェイコブスには、野崎さんの推薦の「市場の倫理 統治の倫理」という素晴らしい著作もあるので、合わせて購読されることをお勧めします。
- ②は、自然や文化をどのように受け止めればいいかを、物理学者でもあり防災学者でもある筆者の目線で語り掛けてくれている。寺田寅彦は、私が 50 年間、師と仰いできた先達です。全 30 巻あるうちの一番のおすすめは、「天災と国防」などの随筆が乗っている第 5 巻ですが、「函館の耐火について」という随筆がある第 4 巻もお勧めです。
- ③は、まちと自然さらには安全とのかかわりを、水害の専門家としての幅広い見識から、深く教えてくれている。この著作の前作にあたる、「国土の変貌と水害』（岩波新書 1971）も、お勧めです。

■ 森栗 茂一（大阪大学 CO デザインセンター教授）

- ①小林隆児、西研 編『人間科学におけるエヴィデンスとは何か』新曜社、2015
- ②金子郁容、松岡正剛、下河辺淳 編『ボランティア経済の誕生』実業之日本社、1998
- ③酒井敏『京大的アホがなぜ必要なのか—カオスな世界の生存戦略』凸版印刷、2019

- ①は、合意や協働など、臨床的総合科学における現象学的論理を提示したもの。
- ②は、当事者が分散的に弱く持っている文脈の編集こそが、まちづくりであり、「結」「寄り合い」「勧進」「座」などが参考になる。

まちづくりの哲学は、都市をランダムモデルではなく、相似クラスター構造（DNA のような）と考え、そのフラクタル構造をみつめ、臨界点（災害時など）での変異のダイナミズムをとらえること

- ③が、まちづくりと考える。

2019 年度通常総会報告 (事務局より)

■日時：2019年5月30日(木)

午後7時～午後8時30分

■会場：神戸市勤労会館 講習室406

(兵庫県神戸市中央区雲井通5丁目1-2)

■出席：正会員数30名中出席正会員数25名

(本人出席15名、書面表決10名)



■議題：第1号議案「2018年度事業報告および2018年度決算報告承認の件」

第2号議案「2019年度事業計画および2019年度活動予算承認の件」

■議長：松原永季氏

■議事録署名人：野崎隆一氏、辻信一氏

■議事の経過および結果：

○第1号議案「2018年度事業報告および2018年度決算報告承認の件」

質疑・理事の役割分担等⇒研修、広報・集客、個々の事業で分担している。

・専任職員へのヒアリング、事務所移転⇒山元町事業職員は担当者が把握、事務所移転で同じ場所となり事務局長と職員の意思疎通がうまくいくようになった。

結果・全員異議無く承認可決。

○第2号議案「2019年度事業計画および2019年度活動予算承認の件」

質疑・4年間ニュースが未発行⇒会員から再刊号を担当するとの提案があり、理事会と一般会員の協同で発行することとし、事業計画に「ニュース等の発行」を入れる。

・印刷製本費予算が0円だが⇒複合機印刷は管理費扱いだが、決算時に清算する。

・若手まちづくり人材育成⇒まちづくりコンサルタント事務所の新人研修は合同でやった方が有効なのでプログラムを作成しセミナー開催の方向で動いている。

結果・事業計画に「ニュース等の発行」を追加、全員異議無く承認可決。

総会議決文書は、以下でご覧いただけます。

事業報告：<http://www.kobe-machiken.org/outline/set/report18.pdf>

決算報告：<http://www.kobe-machiken.org/outline/set/settle18.pdf>

事業計画：<http://www.kobe-machiken.org/outline/set/plan19.pdf>

活動予算：<http://www.kobe-machiken.org/outline/set/budget19.pdf>

2019年度の事業紹介（事務局より）

※●は事業名、次行の（）内は、委託および助成元／事業期間／委託および助成額

（１）民間非営利組織、市民活動及びまちづくりに係る調査・研究・研修・政策提言

●狩口台 8 団地再生概要計画提案委託業務

（狩口台 8 団地管理組合委託事業／2019 年契約締結日～2020 年 8 月 31 日／800,000 円）

建設後 50 年近くが経過し、建物老朽化と居住者高齢化が進み、狩口台 8 団地の住環境改善のための本格的な再生検討に先立ち、取り組みへの権利者の合意を促すため、再生コスト、再生手続き、再生イメージなどを提案し再生計画の概要を明らかにします。そのための専門家検討会議を 6～8 回と権利者等への報告会を開催します。

（２）民間非営利組織、市民活動及びまちづくりの支援事業

●平成 31 年度地域コミュニティ支援アドバイザー業務

（神戸市委託事業／2019 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日／4,430,000 円）

神戸市各区役所における地域支援者の連絡会議の開催を支援し、連絡会議や地域会合への専門家派遣を実施します。他に自立的な地域形成に向けた課題を各区間で共有するためのニュース・レターの発行を行い、各区からのコミュニティ支援に関する相談を受け付けます。2019 年度内には数回のケースカンファレンスを行い、事業の円滑な進行と成果の共有化・総合化に向けた取り組みを行います。

●神戸市まちづくり拠点施設企画運営業務

（神戸市委託事業／2019 年 8 月 26 日～2020 年 3 月 31 日／11,683,000 円）

地域や社会に貢献したいという意欲を持つ人々が交流・学習し、地域や社会の課題解決に取り組むための場として、神戸市立こうべまちづくり会館にまちづくり拠点施設が開設されます。この施設運営のほか、様々なまちづくり拠点機能（地域課題の情報収集機能、地域課題解決プログラムによる人材育成機能、まちづくりに携わる様々な人材の連携交流機能、更なる人材・地域課題の集積を促す情報発信機能）の企画運営を行います。

●つばめの杜地区の地域への愛着の醸成を通じた担い手育成とコミュニティ形成事業

（みやぎ地域復興支援助成金事業／2019 年 6 月 1 日～2020 年 3 月 31 日

／3,157,000 円+自己資金 351,083 円）

自治会運営ができるようになった「つばめの杜地区」のコミュニティ形成のため、地域のコミュニケーション不足解消と高齢者の生きがいをづくりのための『コミュニティサロン

つばめ』の開設、小学生に地元愛の育成を図るためのつばめの杜中央公園に関する学習、担い手育成のための「若者が集まるまちづくりワークショップ」を実施します。

●専門家集団による被災経験を活かした「復興地域づくり」支援事業

(2019年度日本郵便年賀寄附金助成事業／2019年4月1日～2020年3月31日
／1,690,000円+自己資金347,605円)

阪神・淡路大震災を経験し、現在も地域住民によるまちづくり活動を多様な立場で支援している専門家集団により、被災各地でその経験を活かし、災害復旧だけではない持続可能な「復興地域づくり」への活動を支援します。益城地区（熊本県）、西原地区（熊本県）、宇和島地区（愛媛県）、真備地区（岡山県）を対象地区として取り組んでいます。



日本郵便 年賀寄付金



2019年8月31日 真備地区（岡山県）

●平成31年度被災地コミュニティ再生支援事業業務

(山元町委託事業／2019年4月16日～2020年3月23日／11,000,000円)

町内の復興コミュニティ再生を支援するため、2019年度は現地に2人のスタッフを引き続き雇用し、復興ステーション（2019年度から予算が厳しいため移転）を拠点に、震災後の移転でできた町のコミュニティ再生をサポートします。また、山元町のみでなく、近隣の市町での復興コミュニティ再生支援の取り組みについても積極的に行なっていきます。

●南阿蘇村被災集落再建に向けたコーディネート業務

(南阿蘇村委託事業／2019年4月12日～2020年3月23日／3,630,000円)

熊本地震により大きな被害を受けた地区においては、復興むらづくり協議会を設置して住民と村が共同し道路などハード面の復旧を中心とした協議を進め事業実施の目処はついてきたが、集落再建・復興はまだ道半ばの状況です。そこで、復興むらづくり協議会運営支援、集落支援員・地域おこし協力隊との共同、協議会情報交換会の実施、復興フォーラムの実施の業務により集落の活性化に向けた具体的な取り組みへの支援を行います。

●会計事務等支援アドバイザー派遣事業

(神戸市委託事業／2019年4月1日～2020年3月31日／1,426,000円)

地域活動団体（ふれあいのまちづくり協議会）の会計事務向上をサポートするアドバイ

ザーを派遣します。ステップアップのための講座も開催します。NPO の会計担当者を地域の会計支援のアドバイザーとすることで、NPO と地域団体との相互理解につながることも期待しています。(これまで行ってきた NPO の運営支援については、神戸市の方針により 2019 年度からは実施しません。)

●北区地域提案型活動助成「アドバイザー派遣」に係る制度検討業務

(神戸市北区委託事業／2019 年 6 月 19 日～2020 年 3 月 31 日／600,000 円)

2019 年度北区「地域提案型活動助成」の活動団体に対し、試験的にアドバイザー派遣を行い、初動期終了後の自立を目指すためのふさわしいアドバイザー派遣制度の検討を行います。そのため、派遣先団体の選定、ヒアリングシートの作成、アドバイザーの選定・派遣、活動報告会への出席等を行います。

(3) まちづくり及び地域再生のために必要な事業

●明舞団地エリアマネジメント推進事業

(令和元年度ひょうごボランティア基金地域づくり助成 NPO 事業助成
／2019 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日／5000,000 円)

マンション管理組合の支援業務をビジネス化(「まち会社」設立)する計画である。2018 度は、マンション管理組合ネットワークの事務局運営を試験的に実施しました。2019 度は、マンション管理組合ネットワークが自走するための事業化をひょうごボランティア基金の助成を受けて実施します。

新会員紹介「鬼本英太郎氏」(1956 年生まれ)

2019 年 3 月までひょうごボランティアプラザ所長代理を務めていました。

1980 年から兵庫県に勤務し、当初より市民活動にかかわる仕事に就いていましたが、阪神・淡路大震災では県災害対策本部要員などを務め、災害復興を通じて市民活動に触れました。その後、復興推進課長、県民生活課長、淡路県民局副局長を務めるなど、長年、市民活動や生涯学習、震災復興支援に携わり、近年はボランティアセクター全般や地域づくり、災害ボランティア・東日本大震災等の被災地支援に関わってきました。4 月からは(公社)兵庫県専修学校各種学校連合会の常務理事を務めますが、これまでの活動を継続の場を求め、(非)神戸まちづくり研究所に参加しました。どうぞよろしくお願ひいたします。

(非)震災リゲイン理事。共著「地域×クリエイティブ×仕事: 淡路島発ローカルをデザインする」(2016 年)、「震災ボランティア入門」(2018 年)執筆

神戸市まちづくり拠点施設企画運営業務 10月1日よりオープンです！ (スタッフより)

この度、神戸市立こうべまちづくり会館の4階に、まちづくり拠点施設が整備され、その運営を当法人で受託しました。まちづくりに関わる様々な活動をされている様々な立場の方たちにとっての「拠点」となる施設になるように運営していきます。

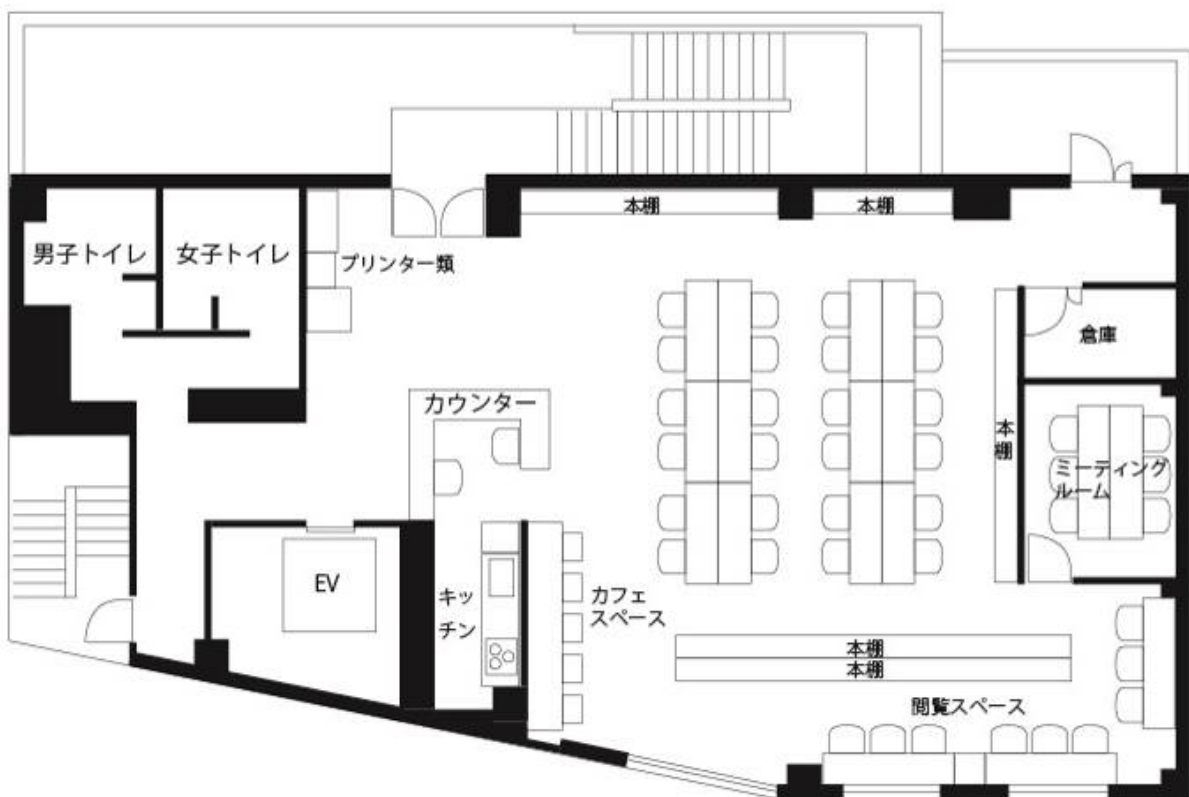
ぜひ、お立ち寄りいただき、ご利用ください。お待ちしております。

まちづくりラボ担当スタッフ 山岸千夏

施設の概要

- ・まちづくりの情報が集まる掲示板
- ・まちづくり関連図書がたくさん並ぶライブラリー
- ・会議や作業につかえるフリースペースとミーティングルーム
- ・勉強や研究などに集中したい時に便利な「閲覧スペース」
- ・カフェ機能も完備（カフェの運用は今後検討する予定です）

まちづくり拠点施設 まちづくりラボ 見取り図



発行: 特定非営利活動法人神戸まちづくり研究所

〒658-0013 神戸市東灘区深江北町4丁目8番19-202号 TEL: 078-855-8520 FAX: 078-436-2121

E-mail = LET07723@nifty.ne.jp Homepage = <http://www.kobe-machiken.org/>